

令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立仲六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成 果

- ・ 場面に応じて図や数直線に表すことで、問題文で何が述べられているか、何を求めるのかを整理し理解できるようになってきた。(4年)
- ・ 作図に取り組む時間を十分に確保したり、身の回りの具体的な形を対象としたりしたことで、図形に対する理解が深まった。(5年)
- ・ 単位量当たりの領域では、もとにする1をとらえる発問をしてきたことで、もとにする量と比べられる量を理解して立式をしたり答えを出すことができたりした。(6年)
- ・ 数直線での立式を定着させたことで、根拠をもって立式することができるようになった。(6年)

(2) 課 題

- ・ 「数と計算」において、計算技能の習得で確実な定着がされていない。(4年)
- ・ 「図形」において、図形のもつ性質についてはおおむね理解できてはいるが、それらを図形から読み取ることや活用して課題解決することを苦手としている児童が多い。(5年)
- ・ 既習内容が未定着な児童が多く、既習事項を活用した問題解決が課題である。(6年)
- ・ 基礎的な計算力の向上。(全学年)

2 大田区学習効果測定の結果について

(1) 達成率（同一集団の経年変化）



	令和5年度	令和4年度	令和3年度
第4学年	・校内の正答率の平均が、区内の平均正答率とおおむね同程度となっている。	・校内の正答率が、区内の平均正答率よりやや下回っている。特に「大きい数」「小数と分数」「わり算」に課題がある。	・目標値をやや下回る。「たし算・引き算」に課題がある。
第5学年	・校内の正答率の平均が、区内の平均率より全ての項目で下回る結果となっている。	・校内の正答率の平均が、目標値より下回っている。特に「面積の求め方」「グラフの見方、読み方」に課題がある。	・目標値をやや下回る。「小数」「変わり方調べ」に課題がある。
第6学年	・校内の正答率の平均が、区内の平均率より全ての項目で下回る結果となっている。	・校内の正答率の平均が、目標値を大きく下回る結果となっている。特に「割合」に課題がある。	・目標値をわずかに下回る。「整数のなかま分け」「割合」に課題がある。

(2) 令和5年度の結果分析（観点別）

・ 4 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・3桁+4桁(繰り上がり)の多い計算を正しく計算できない児童が多い。 ・分子が1の分数が何個で1になるのか理解していない。また、数直線上の数を読み取る力が弱い。	・余りのあるわり算の文章題で問題を解くために立式し、余りを処理して正しい答えを求めることができない児童が多い。	・道のりを求める問題や長さ・重さを求める単位換算等を正しく求める力が弱い。

・ 5 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・わり算・計算のきまりを理解し、正しく計算する力が弱い。 ・複合図形の求め方、図形の特徴も含めて理解の定着に課題がある。	・小数の計算問題や数直線上に示された分数の読み取りが弱い。 ・身近にあるものの面積を推察して考え、答えを導く力が弱い。	・小数の計算や数直線上に示された分数の読み取りで誤答が目立つ。小数、分数などの計算のきまりを理解し、課題に粘り強く取り組み正しく計算する力に課題がある。

・ 6 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・全ての学習が下回る結果から、学習の定着をどのように行うかが課題。	・文章題を理解し、立式をたてることを苦手としている。	・全ての問題で無回答が大きく目立つ。理解できない問題に粘り強く取り組む力が課題。



3 授業改善のポイント

・ 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 年 ・たし算やひき算の計算について、カードやスキル、宿題プリントなどを使って繰り返し練習に取り組む時間を確保する。 ・キーワードと立式に必要な数値を問題文から読み取らせたり問題場面をブロックで表したりする活動を通して、問題の意図を正しく理解できるようにする。 2 年 ・直線をひくという学習活動を反復して行い、技能が正確に身に付くようにする。 ・計算スキルやまなびポケットのドリルパークを活用し個に応じた問題を提示し、数量や図形についての技能の定着を図る。 ・具体物を用意し、視覚的に理解できるように教具の工夫をしたり、具体物を操作する活動場面を多く設定したりして、数量や図形の理解を深めるようにする。	1 年 ・考えた過程を説明する場を設けたり友達の考えを聴くときには、自分の考えと同じ点、違う点はどこかを意識させたりするなど、考えを伝え合い、表現する活動を増やしていく。 2 年 ・絵や図を書かせて、問題の意味理解を図れるような指導をしていく。 ・考え方を伝え合い、表現する活動を増やしていく。 ・本時のキーワードを提示し、文章題では、分かりやすい図式に表現させ意識化を図る。	1 年 ・意欲的に取り組めるように、具体物や半具体物など、視覚的に分かりやすい教材を用意する。また、操作する時間を十分に確保する。 2 年 ・苦手な児童も意欲的に取り組めるように、習熟度別プリントを利用し、スモールステップで学習を進める。 ・確かめや振り返りを充実させ、定着の時間を確保する。 ・ドリルパーク等、ICT機器の活用により、知識・理解、技能の習得、反復練習も意欲をもって取り組めるようにする。

・ 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3 年 ・習熟度の段階に応じて、授業の始めに単元の系統にあった既習事項の復習をし、知識を確かなものにする。	3 年 ・課題については、具体物や図、式を用いて考えさせる。ミニホワイトボード、ICT 機器等を活用し、立式の理由を共有し互いに学び合	3 年 ・毎時間毎の終末では、適用問題や振り返りをするようにし、「できた」「分かった」を価値付けていく。

・仲六学習スタンダードの徹底を図り、学習習慣の定着を図る。 ・基礎的な計算力を高め、文章題の立式や筆算の仕方ができるように、ドリル学習やタブレットドリル等を活用し、繰り返し学習に取り組ませる。 4 年 ・朝学習でドリルやタブレットドリルを使い、学習内容の定着を図っていく。既習内容についても、宿題などを活用し、繰り返し問題に取り組ませるようにする。	う活動を多く取り入れるようにする。 ・問題文の大切な箇所に線を引き、問題の意味を正確に把握できるようにする。 4 年 ・立式して答えを求める際は、図や、数直線などを活用して、自分の考えを書くようにする。書いたものは、グループや学級全体で発表する場面を確保し、共有する。その際、式と関連付けて説明するなど、児童が自らの考えを広げ、深められるようにする。	4 年 ・量の学習において、既習事項を振り返りながら、単位間の関係について図や表を用いて視覚的に捉えさせ、整理させて生活と結びつける。 ・習熟に応じた問題に取り組ませ定着を図り、「できた」「分かった」という経験をたくさんさせる。 ・長さ、かさ、重さの単位の仕組みを捉えるために、表で整理し共通点を見出す必要がある。
--	---	--

・ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5 年 ・学習習慣「仲六学習スタンダード」の徹底を図っていく。 ・図形の面積や体積、作図に関係する単元では、公式を導く過程で、図形を構成する要素、それらの位置関係などに着目させ考えられるようにしていく。 ・表の見方や作図の仕方では、縦と横の項目の関係を捉えさせるようにしていく。 6 年 ・下学年の学習を想起させ、簡単な問題を例題に上げ定着させる。 ・課題については、数直線で捉えさせ、必ずもとにする 1 から考えてかけ算から数量の関係を捉えさせるようにしていく。 ・問題場面と式を対応させるやり取り、タブレット端末を活用した計算技能の習熟が図れるようにしていく。	5 年 ・作図では、他教科においても、コンパスや定規を使う場面を積極的に設け、デジタル教材を活用し用具の正しい使い方を定着させる。 ・小数の計算問題では、既習の計算方法や倍の学習を基に考えさせ、計算の仕方を丁寧に共有していく。 ・分数の学習では、分割分数、量分数、割合分数等の意味の違いを捉えさせていく。 6 年 ・文章題では、基にする量と比べられる量や、もとにする 1、単位に着目させ確実に読み取るようにする。 ・立式の根拠を上げさせ、式が成り立つ理由を図や数直線をすすんで活用できるようにしていく。 ・児童が考えを伝え合う活動を設け、自分の考えを広げ、深められるようにする。ITC 機器を活用し、考えを共有していく。	5 年 ・単元や毎時間毎の終末では、習熟度にあった適用問題や振り返りをするようにし、「できた」「分かった」を価値付けていく。 ・導入の場面で既習事項の確認をする時間を設け、本時の問題解決に必要な既習事項を提示する等、解決へのヒントを示し、主体的に取り組めるようにする。 6 年 ・単元や毎時間毎の終末では、習熟度にあった適用問題や振り返りをするようにし、「できた」「分かった」を価値付けていく。 ・日常の生活や他教科、既習事項との関連を踏まえながら、見通しをもって、自分の考えを伝え、主体的に取り組めるようにする。